

2005 年 6 月 17 日

関係各位 殿
加盟大学航空部長 殿
指導員 殿
加盟大学航空部主将 殿

財団法人日本学生航空連盟
専務理事 鈴木 明治

訓練再開にあたって安全運航のお願い

5月17日の「第23回久住山岳滑翔大会」の事故を受けて、加盟各校に対して訓練飛行等の自粛をお願いしてきましたが、6月18日(土)をもって関東、東海、関西支部で訓練飛行を再開します。より安全なグライダーの構築と信頼回復を目指して、事故のない、安全運航をお願いします。

「訓練飛行の再開について」(文書番号 JSAL05-17 2005年6月16日付)でご連絡したように、各支部の活発な論議を踏まえて、再発防止に向けて連盟の安全対策がまとまり、加盟各校や支部に対して、内容確認と実施報告をお願いしました。その結果、関東支部の加盟全校の航空部長・監督と、中村佳朗・東海支部長、那須正夫・関西支部長から安全対策実施報告が届きました。連盟としては、安全対策の了解が得られ、かつ訓練再開前に実施するべき対策を講じたと判断して、訓練再開に踏み切ることになりました。連盟の全組織をあげて安全対策に取り組んで頂いたことに、改めて感謝します。

また、本日6月17日、国土交通省航空局技術部乗員課と運航課に対し、「航空事故報告書(JA21KK)及び安全対策」を提出、受理されました。理事会社をはじめ関係機関への報告も併せて進めています。西部支部については、6月19日(日)に福岡で航空部長会議、支部運営委員会を開催し、連盟の安全対策について説明するとともに、今後の対応を協議します。西部支部としての訓練再開はいましばらく時間を要します。

今回の安全対策は、背風基準の新設などのほかに、スポーツ訓練実施規定の改定、学連訓練シラバスの見直しなどやや時間を要するものも含まれ、今回の事故を教訓に考えられる対策はすべて網羅したと考えています。その一つひとつが重要であり、各支部、加盟校に対しては、こうした対策が確実に実施されていくように、責任をもって対応して頂けるようお願いいたします。連盟としてもフォローアップを続けます。

訓練は再開しますが安全確認の手続きを踏んで、無理のない飛行再開をお願いします。今後事故が続くような事があれば連盟の維持のみならず、学生グライダー活動自体の継続が困難になります。今回の事故は22年ぶりの重大事故であり、訓練現場において過信や慣れが起きていないか、いま一度、足元から見つめ直して、安全運航と信頼回復に向けての再出発の日にしていただきたいと切にお願いします。

最後になりますが、中村光宏教官、三村隆浩さんのご冥福を祈ります。

以上